

自然とエネルギーのバランスを考えて
福島第三小学校 六年 遠藤 萌花

日本のエネルギー自給率は、約六パーセントと聞きました。他の国では六百パーセントを超える所もありこんな差があるなんてとおどろきました。もちろん国土の広さや石油などのエネルギーをとることができる量が少ないという事もあるし、東日本大震災の後原子力発電をやめてしまつた所があるという事も原因の一つだと思います。地球温暖化を防ぐ

ため「パリ協定」と呼ばれる約束のもとで、対策に取り組まなければいけないのに日本では安く手に入る石炭を使つた火力発電所の建設が四十基以上計画されているそうです。火力発電は、地球温暖化を進める二酸化炭素をたくさん出すので問題視されています。イキリスやテムマークでは、石炭を使う火力発電を廃止しようとする動きが見られるのに日本は世界の流れに逆らつていると新聞の見出しにのつていました。(毎日小学生新聞八月三

日号)

東日本大震災を経験してエネルギーが当たり前ではなくなりに大切に考えさせられました。特にここ数年で福島には、再生可能エネルギーを発電するたくさんの方のしせつが作られました。夏休みを利用して福島市内の再生可能エネルギーが発電されている所へ行ってみました。そのいくつかをご紹介します。

(1) 四季の里 小水力発電

水が高い所から低い所へ流れる力で水車を回し水車にある発電機によって電気を起こしています。川は、一日中流れているし天気にも左右されなから一日中発電できます。しかし細い川は流れてきた枝や枯葉などが水車にたま。て止まりやすいです。近いうちにすり上川浄水場にダムから流れてくる水の水力を利用した水車が出来そうです。また、水道管を流れる水の水を利用して発電する、ピコ水カというのもあるそうです。

(四季の里)



(2) さいえねパーク 太陽光発電

ここには、八千六百四十枚太陽光パネルがあります。一般家庭約六百三十件分の年間電気を消費量をまかなえるそうです。太陽光発電は太陽が出てくれればずっと電気を作ることができず。しかし雨や雲、冬などで太陽が見えないと発電できません。また、パネルを作るのにもお金がかかります。このしせつでは他にも今回は見れなかつた風力で発電する風力発電、地中の熱を使って発電する地熱発電

へ土湯のバイナリーの事や物を燃やす力で発電するバイオマス発電の仕組みやメリットデメリットについて教えてもらいました。限りがあつて環境には良くない、化石燃料に比べ自然界にあるカを使う「再生可能エネルギー」は、良い所がたくさんあります。しかし作るのにコストがかかつてしまうのが難しい所なのかもしれません。さいえねパークでは人力発電を体験できます。私モヤつてみました。必死に自転車をこいでけいたいの

(人力発電体験)



発電までできるワット数を出す
事ができましたがそれを一時間
こき続けなければいけなかつたようです。発
電する。て大変なんだなあと改めて感じまし
た。

再生可能エネルギーの事を調べていて少し
気になっていた事があります。最近太陽光パ
ネルが山の斜面に設置されているのをよく見
かけて、落ちてこないかなあと心配していま
す。それにこの木は本当に切っていいの？と

いう木まで切られていました。そこで自然を
減らしてまで自然の力を使った再生可能エネ
ルギーを作るべきなのか疑問に思いました。山
の斜面に太陽光パネルを設置する時には、その設置
が環境に与える影響がどれくらいなのか調べ
て工事に取らなければならないのか調べる
木を切るなど企業側のルールを守るようにし
ていると言っていました。また、再生可能エ
ネルギーを作り出すには自然とのバランスを

天切にしなければならぬので切。木木の分
 を他の場所に植えたり緑の保全活動を行。木
 りと切ったままこわしたままにしないように
 しているを教えてくださいました
 そして、電気を作ることもだ
 けでなくそれをどう使うか
 が大切だと教えてくれました

山の斜面にパネルが設置されている。



り節電もできます。家族の仲も深まります。
 また冷蔵庫の中に物をつめておきすぎないとい
 うのも節電だそうです。実際にやってみたい
 と思います。

私が大人になつた時には、新しい再生可能
 エネルギーができてくるかもしれません。で
 もその源は自然です。その自然を大切にしな
 がら素敵な自然エネルギーができていくこと
 を願っています。

さいえねわーの
 太陽光パネル

